

第8回 生物多様性神戸プラン推進委員会 議事録

- 1 開催日時：令和元年8月6日(火) 14時～16時
- 2 開催場所：須磨区横尾
3. 出席者：武田委員、島本委員、長岡委員、橋本委員、平岡委員、花田委員、安井委員、山本委員
4. 内容：「須磨 FRS ネット」及び「よこおみち森もりの会」の活動について（現地視察）

●須磨区まちづくり課より「須磨 FRS ネット」について説明

- ・ 須磨 FRS ネットは、平成 20 年に G8 環境大臣サミットが神戸で開催されたことによる機運の盛り上がりをきっかけに、須磨区の呼びかけにより自然愛護団体間の連携や意識の共有、森・川・海の繋がり認識を図るため、須磨区内の複数団体での情報交流会、パネル展示実施など市民への広報等の取り組みを重ねて交流を深め、平成 21 年に当会の発足に至った。現在、森・川・海の各地で活動する 14 団体で構成している。
- ・ 須磨 FRS ネットの事務局を当初は須磨区役所が担っていたが、平成 24 年より、任意団体として独立し、主体的にウォーキングイベントや講演会等の取り組みを継続している。
- ・ 月一回、企画会議を開催し、須磨区も出席して行事運営等を話し合っている。
- ・ かつて須磨区役所が主体となって運営していた行事の趣旨を継承する事業であることから、ウォーキングや自然環境サミットについて、須磨区の助成金「須磨魅力発信行事助成」を活用している。

●よこおみち森もりの会代表より「よこおみち森もりの会」について説明

- ・ 活動場所は、よこおみち、のじきくの丘、友が丘等、2 地区 10 箇所である。
- ・ よこおみち森もりの会は、須磨 FRS ネットの構成団体の 1 つであり、現在、よこおみち森もりの会代表が須磨 FRS ネットの代表を務めている。
- ・ 散策路を作ることをきっかけに、当会を発足し、この 3 月で創立 10 周年となった。
- ・ クズに覆われていた法面を手入れし、姫路市大塩のノジギクの花を挿し芽で増やして植え、「よこお野路菊の丘」として整備した。毎年の開花期には、人々が訪れる花の名所となっている。除草は手作業で時間をかけて行っている。
- ・ 横尾や友が丘において、木・竹の伐採、歩道の補修、広場の整備等を行い、自生の植物を増やして植え、シイタケの栽培をする等、多くの人が親しみやすい場所づくりを行っている。整備をすることで、自生の草木もよく見えるようになり、季節の彩りを楽しめる。森林インストラクターである会員を中心に生物調査を行っている。
- ・ 活動場所でキツネと遭遇したこともある。良好な生態系があると考えられる。
- ・ 子ども向けの自然観察会、竹細工体験学習など、啓発活動も実施している。
- ・ 多井畑西地区の土地区画整理については、市街化区域ではあるが、人と自然が共生できるまちとなるよう、里山環境の保全、多自然川づくり等の提案を他団体とともにしている。



「よこおみち森もりの会」による活動場所の説明

●橋本委員

須磨 FRS ネットについては、当初は須磨区が事務局で、現在は民間団体に事務局が移っているが、須磨区と良好な協働関係が続いているということ、須磨 FRS ネットの主な取り組みとしては、祭りやイベント等を行われているということをお聞きした。

それ自体は素晴らしいことだと思うが、神戸市の生物多様性の取り組みを推進していくためにはどうしたら良いかという視点で視察に来ているので、生物多様性の取り組みを拡げていくにあたって、どのようにしていくかというイメージ、大きな目標があればお聞かせいただきたい。

●よこおみち森もりの会

「須磨の自然環境を次世代に」という共通目標で活動している。14 団体の各団体の活動は様々であり、自然環境サミットのテーマも毎年変わっているが、共通の目標は持っている。

●橋本委員

普及啓発をやっていくのは素晴らしいことだと思う。先ほどの開発行為についての話で、付近住民やよこおみち森もりの会が困っているという状況で、須磨 FRS ネットのネットワークの人々が応援してくれるような動きはあるか。

●よこおみち森もりの会

企画会議で応援すると話に上ることもあるが、対応が難しい部分もある。反対運動と捉えられないようにしながら活動している。

●橋本委員

須磨区としては、独立した新しい団体ができたことによって、協働関係を維持するだけでなく、新しいことに取り組むなど次のステップは考えておられるか。

●須磨区まちづくり課

須磨 FRS ネットが長く続いているのは、個々の団体が活発に活動いただいているからである。これら団体の皆様のご意見を聞きながら、進化させていきたいと考えている。行事も現在の3行事ということに限っているわけではなく、例えば、過去には須磨 FRS ネットの行事として、「エコ・アスロン」といって須磨区内の自然豊かな場所を巡りながら、クイズなどに挑戦し、環境問題に関心を持つとともに須磨の魅力を再発見してもらうようなイベントも行っていった。今後も皆様のご意見を聞きながら、より良くするための提案の実現を様々な形で支援していきたいと考えている。

●橋本委員

現在 14 団体ということだが、団体の増え方はどのようなようであるか。

●須磨区まちづくり課

平成 20 年に須磨区がはじめて声をかけて意見交換をした際は、11 団体であった。高齢化により活動をやめたために団体が減ったり、また新たに増えた団体があったりして、14 団体となっている。劇的に団体数が増えることはないが、今の団体の活動が維持できるように広報面等で支援していきたい。

●橋本委員

どこの団体も高齢化の問題はありますね。

●よこおみち森もりの会

設立時から現在も継続している団体は 8 団体、そして 6 団体が新たに加わった。いろいろやりたい事はあるが、あまり増やしてもできないので、現在の 3 行事はきちんとやろうという話になっている。

●橋本委員

お互いの活動の応援等、団体どうしの横のつながりはあるか。

●よこおみち森もりの会

ある。お互いに情報を流したりしている。

●橋本委員

1 つの団体ではできないことも、複数の団体に協力を求めればできることもある。除草作業なども協力を求めれば実施しやすいと思われ、団体間の横のつながりは重要であると考えられる。

このような活動は須磨区以外ではできていないと思われるが、活動を須磨区以外の他区に広げる、転用できるノウハウはあるか。

●須磨区まちづくり課

須磨区には海、森、川という豊かな自然がコンパクトなまちに集まっており、個々の団体が活発に活動しているという点が大きいので、すべての区に当てはめられることではないと思うが、団体同士のつながりを作るきっかけづくりを行政が担うことは大事だと考えられる。

●橋本委員

つなげる役目を担うことは大事である。

●山本委員

私も須磨区で保全活動をしているが、よこおみち森もりの会は、素晴らしい活動であると思う。

ノジギクの栽培について確認したい。私は須磨でノジギクの自生を見たことはないが、ノジギクを植えられた選定基準をお伺いしたい。兵庫県の花であるということ以外に、どのような理由で栽培をはじめられたのですか。

●よこおみち森もりの会

斜面の左端にノジギクがあったことをきっかけとして、姫路市大塩の方からノジギクをもらって増やした。後でわかったことだが、我々が活動を始めるより数年前に近隣の高校生徒が播磨からノジギクをもらって植えたものだということが分かった。ノジギクを拡げる運動が盛んであった時期があったようだ。

●山本委員

都市部で保全活動を行うには、近隣住人のご理解や喜んでいただけることが大切であるように思う。そのような意味では、花を楽しめるようにすることは有意義でもあり、大切であると思われる。その花を単に園芸種ではなく、在来種であり、県の花であるノジギクを使われたことが素晴らしいことであると思う。

もう一つ質問だが、外来種の防除はされてないですか。オオキンケイギクが見られたので少し気になったが。

●よこおみち森もりの会

オオキンケイギクを抜いたこともあるが、かなり時間がかかり、他の活動ができなくなるので、防除をあきらめた。



よこお野路菊の丘

●島本委員

須磨 FRS ネットは、数年前までは須磨区まちづくり課が事務局をしていたそうだが、市民団体に事務局が移った経緯はどのようなものであるか。

●よこおみち森もりの会

現在の事務局住所は、幹事である「いたやにすと」の事務所住所である。

市民団体に事務局が移った経緯としては、行政の一つの考えとして、ある程度年数が経過したら、役所任せでなく団体が自立したらどうかという考え方があったことと、須磨 FRS ネットも事務局ができる力がついてきたということがあったためと思われる。

●島本委員

散策路の途中に間伐材を利用したと思われるシイタケのほだ木を見かけた。地域の環境資源（コナラなど）を良好に保全することと同時に、地域資源としてこれを活用することも大切なことだと思う。木を伐採して、資源として活用することはかなり大変であるが、シイタケのほだ木以外にどのように活用されているか。また将来的な活用計画はあるか。

●よこおみち森もりの会

それほど木材として量が出ない。木の太い部分はベンチを作成したり、ほだ木、山道の整備の杭に使ったりしている。台風等で倒れた木を活用することもある。切った木を運び出すのは大変である。

今、神戸市が試行で、法面のウバメガシを和歌山に運び、神戸ブランドとして備長炭にすることを3年前から実験しており、我々も参画している。

●花田委員

こちらに来る登り道の整備もされたのですか。

●よこおみち森もりの会

あちらの整備は行政が行ったが、手すりの付け方には意見を出して、変更してもらった。

●花田委員

メンバーをつないでいくことが重要である。例えばプラスチックごみに関しても、森、川、海のつながりが重要で、そのようなつながりの視点を持つことは大事である。

このように良い活動・場所であるので、次世代につなぐということで、学校教育と連携はしていないのですか。

●よこおみち森もりの会

須磨 FRS ネットで学校とつながっているところは、少ない。

●花田委員

もったいないことと思う。子どもの頃にこのような素晴らしさを体験すれば、須磨区外で過ごすようになって、心に残ると思われる。素晴らしい活動であるので、学校とつながっていただけたらいいと思う。

本日はありがとうございました。



「よこおみち森もりの会」活動場所の標識